



## 第6,7回PT会議より 授業実践 現代文B

田中 里奈 教諭 2年1組

小説「こころ」のレポートを書くという単元を2年生全クラスで実施し始めて、今年で3年目となりました。今回は、その単元の中の一つの取り組みとして、レポートの評価基準を自分たちで見直す、という活動を行いました。まずは、レポート例を見ながら、そのレポートの良い点、改善点をジャムボードに書き込んでいきました。次に、グループで評価基準を見直し、グループで出た意見を全体場で共有しました。非常に鋭い意見が各グループから出されました。授業の振り返りでは、「評価する立場になって考えてみると、レポートを書くに当たって重要視するべき点が分かったり、気をつけないといけない点に気づいたりして、今後活かせることを得られた。」「評価基準については、評価される側の意見が反映された納得できるもののほうが書きやすくなると思う。」といった感想が見られました。

## 研修「自走力を養う進路指導とは」

野村 幸史 教諭 杉坂 卓哉 教諭

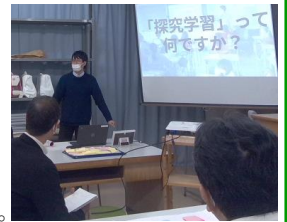
「自走力養成のために進路指導を活用したいけれど、どうしてもいいんだろう」という一担任の悩みからスタートした研修です。数回の研修で内容を深めていく予定です。11月29日(火)、1月27日(金)の研修では、進路指導を行う上で担任としての悩みや知りたいこと、ベテラン教員のスキルや実践例を見ていくことで、進路指導の現状を視覚化・自覚化・共有化していくことを目的にグループで話し合いました。次に、学年ごとに集まって、進路部が出している進路ストーリーを見ながら、1年間の取り組みについて振り返ってもらいました。色々な意見が出て話し合いは盛り上がっていました。



## 実践報告 武高アカデミアの新設部門「探究」の授業

小原 崇裕 教諭

武生高校では毎年、SSH 中高連携事業として「武高アカデミア」を実施しています。今年度は令和5年1月7日に実施し、中学2年生を対象に数学、物理、化学、生物、そして今年度より新設した探究分野で、「武生高校生が」授業を行いました。探究分野では探究進学科・探究理科・探究文科の生徒11名が、教師役3名、TA8名となって授業を行いました。今年度の探究分野のテーマは「ペーパーブリッジコンテスト」。仮想通貨である1,000円を使って、材料や道具を買い、異なる中学校の生徒間で協力し、より強靱な橋を完成させるのが目的です。テーマについては、教師役の本校生徒たちに担当教員側からアイデアを出しましたが、タイムスケジュールや授業展開、TAの役割などについては、全て生徒自身で考えていました。教師役の生徒たちの思考力と行動力に驚かされました。当日のTAの生徒の動きも申し分なく、中学生が積極的に活動しやすい空間が生まれていたと思います。今回参加した武生高校生の活躍を見て、本当に力がある生徒たちだな、と再確認することができました。これからもこのような活躍の「場」を提供することが出来る教員でありたいと思います。



第7回PTは、福井大学の遠藤貴広先生、富山大学の増田美奈先生、金沢大学の本所恵先生も参加してくださいました。先生方のご発言をご紹介します。

《増田先生》どういうところで壁にぶつかり、どう乗り越えていったかを、生徒の学びの履歴として残すことは、高校でも大学でも意義のあることだと改めて感じた。

《本所先生》今日の探究の実践報告と研修の内容は別々のものだと最初は思っていたが、探究の授業や教科の授業の中で生徒が感じている現在の課題と、進路の課題はつながっていると感じた。

《遠藤先生》本日の「探究」の実践では、中学生に教えられるくらい深く理解できていないとできないため、運営をしようとする中で生徒自身が深く学んでいっている。「探究」の目標の一つに「自己の生き方を考える」というものがあるので、「探究」と「進路」の組合せはベストマッチだと思う。卒業後どういう活躍をしているのか、その生徒は在学中どういう学び方をしていたのかを確認できるようにしておくと、カリキュラム改善にもつながる。